

にほん 日本のしき

URL : <https://youtu.be/uX-SXKfjBGE>

こんかい「にほんのしき」をまなびながら、にほんごべんぎょう
今回は「日本のしき」を学びながら、日本語を勉強しましょう。

このどうがは、ぜんはんは少しゆるりのスピードで、かんじにはふりがながあります。

こうはんは少しだけはやく（+20%）なり、かんじにふりがなはありません。がくしゅうにおやくだてください。

じこ 自己しょうかい

わたしなまえさとう たるう
私の名前は佐藤太郎です。こんかいは「にほんのしき」についてしょうかいします。日本にははる なつ あき ふゆ よつ
す。日本には春、夏、秋、冬の四つのきせつがあり、どのきせつにもどくじの
ぎょうじ たの かた
行事や楽しみ方があります。日本には、きせつごとのうつくしいしぜんやとく
べつな行事、そしてそのきせつならではの食べ物を楽しむ文化があります。こ
んかいは、しきのうつりかわりとともにかんじる、しぜんのふうけいやあじ
あじ
味わいをしょうかいします。

たとえば、はるにはさくらがさき、なつにはまつりやはなび おこな あき
たとえば、春にはさくらがさき、夏にはまつりや花火が行われ、秋にはこうよ
うがうつくしくいろ
いろ
づき、ふゆにはおんせんでからだ
からだ
をあたためます。このように、日
本ではきせつごとにことなる楽しみ方があり、しぜんとともにすごすためのく
ふうがたくさんあります。しきおりおりのぎょうじ たの かい
ぎょうじ たの かい
行事や食べ物を通じて、日本人は毎
とし
とし
年そのきせつをあら
あら
新たな気持ちでむかえ、楽しんでます。しきがあるからこそ、
にほん
にほん
日本の人々はそのきせつにあつたすごし方をし、きせつのうつりかわりをたいせつ
たいせつ
にしているのです。しきを楽しむ日本の文化を知ること、日本のあら
あら
新たなみり
よくをかんじていただけるとおも
おも
思います。

しきのうつくしさをかんじながらすごすにほんのくらしは、ほかのくにひと
くにひと
にとってもきつときょうみぶかいでしょう。それでは、それぞれのきせつのとくちよ
うについてしょうかいしていきます。

春のふうけいとお花見

日本に春が来ると、人々の気持ちが明るくなります。さくらの花がさき始めると、春が来たことをかんじます。さくらは日本の国の花とも言われ、毎年3月から4月にかけて日本全国でさくらの花が見られます。このきせつには「お花見」とよばれる行事があり、多くの人がさくらの下にあつまり、さくらのうつくしさを楽しみます。

お花見は友達や家族といっしょに楽しむ行事です。人々はこうえんや川の近くでシートを広げ、さくらの木の下で食事をしたり、飲み物を飲んだりしながら、ゆっくりとした時間をすごします。お花見には、お弁当やおかし、飲み物を持って行き、特に「だんご」や「さくらもち」など、春をかんじられる食べ物に人気です。また、お花見の時にさくらの写真をとることも多く、うつくしいけしきをきねんにのこす人がたくさんいます。

さくらは日本の多くのちいきで見られますが、場所によってさくらがさくじきが少しずつちがいます。たとえば、九州の方では3月の始めにさき始め、北海道では4月の終わりにから5月にかけてさきます。

また、春にはさくらだけでなく、うめや菜の花もうつくしくさきます。しかし、このきせつはかふんも多く、かふんしょうでくるしむ人がふえるじきでもあります。目やはながかゆくなるなどのしょうじょうになやまされる人も多く、かふんをふせぐためにマスクをしたり、目薬をさすなどのたいさくがよく見られます。

さくらには「新しい始まり」という意味もこめられています。日本では学校や会社の新しい年が4月に始まるため、さくらのきせつとともに新しい生活がスタートします。このため、さくらを見ると「がんばろう」とまえむきな気持ちになる人が多いです。

このように、春のさくらとお花見は、日本人にとってとくべつな意味があります。春が来ると日本中がさくらやうめなどの花でいろどられ、そのうつくしさに多くの人が心をいやされます。春のおとずれをかんじながら、お花見を楽しむのは日本の春ならではのすばらしいたいけんです。

春のまつりと食べ物

春のはじめ、日本では「ひなまつり」が行われます。ひなまつりは、3月3日に行われるでんとうてきな行事で、特に女の子がいる家でいわれます。家族は「ひなにんぎょう」というとくべつなにんぎょうをかざり、女の子のけんこうやしあわせをねがいます。この日は、ちらしずしやはまぐりのおすいもの、ひしもちやひなあられなどの料理を楽しむことが多いです。

また、春がしゅんの食べ物がたくさん出まわります。たとえば、たけのこや菜の花などが春のしゅんの食材です。たけのこは日本料理によく使われ、にものやいためものにして楽しめます。菜の花も、どくとくのほろにがさがあり、おひたしやあえものとして春の風味を味わえます。山さいは、山でとれるやさいこのことで、春のじきに特にしんせんなものが出ます。天ぷらやにものにするか、おひたしやあえものにして楽しめます。山さいは、山でとれるやさいこのことで、春のじきに特にしんせんなものが出ます。天ぷらやにものにするか、おひたしやあえものにして楽しめます。

春はほかにも行事があります。3月14日の「ホワイトデー」は、バレンタインデーのおかえしをする日です。チョコレートやおかしをこうかんして、かんしゃの気持ちをつたえる人が多くいます。また、春はそつぎょうしきのきせつでもあります。学校のさいごの日にそつぎょうしきにさんかし、新しいステップにすすむじゅんびをします。そつぎょうしきではさくらの花が見られることも多く、友だちや先生との別れをかんじます。

このように、春にはひなまつりや春のみかく、ホワイトデーやそつぎょうしきなど、さまざまな行事や楽しみ方があります。春のおとずれとともに、日本人々は新しいきせつをかんじ、生活を楽しんでいます。ひなまつりのはなやかなにんぎょうや、春の食べ物ゆたかな風味は、日本ならではの春のふうけい

夏のまつりと花火

夏になると、日本の多くのちいきで「夏まつり」が行われます。夏まつりは、古くからつづく日本のでんとうてきな行事で、ちいきごとにさまざまな形で行われています。神社や町の広場で開かれ、地元の人々があつまって、おどりや音楽を楽しみます。「ぼんおどり」という夏ならではのおどりが行われることも多く、子どもから大人まで多くの人がさんかします。夏まつりには、色とりどりの屋台もならび、食べ物やゲームが楽しめる場所となっています。

夏まつりで人気のある食べ物には、焼きそば、たこやき、かき氷などがあります。特にかき氷は、日本の夏をかんじさせるだいひょうてきなつめたいおやつで、いちごやメロンなど、色々な味のシロップがかかっています。あまいシロップとつめたい氷は、あつい夏の日にぴったりです。また、金魚すくいやヨーヨーつりといったゲームもあり、子どもたちにとって夏まつりはとても楽しい行事の一つです。

夏の夜をいろいろのものといえば「花火大会」です。花火大会は、夏の夜空にうつくしい花火がうちあげられるイベントで、毎年多くの人がおとずれます。色とりどりの大きな花火がつぎつぎと空に広がり、そのひかりと音でかんきやくを楽しませます。花火大会には「ゆかた」とよばれるでんとうてきな着物を着て行く人も多く、ゆかたすがたの人々が花火を見上げるすがたは、日本の夏のふうけいを感じさせます。

夏まつりや花火大会は、家族や友だちといっしょに楽しむことが多く、日本の夏をかんじられるイベントです。昼間のあつさをわすれ、夜のすずしい風の中で花火を見上げたり、まつりのふんいきを楽しむことで、夏の思い出を作ることができます。日本の夏はあついですが、夏まつりや花火大会の楽しさがそのあつさをやわらげてくれます。

夏のあつさたいさくと食べ物

日本の夏はとてもあつく、湿気も多いため、かいてきにすごすためのくふうがたくさんあります。あつさをやわらげるために、海やプールに出かけてすずむのは、夏の楽しみ方の一つです。海やプールでは、家族や友だちといっしょにおよいだり、バーベキューをしたりして、楽しい時間をすごします。また、夏のふうぶつであるスイカわりも人気です。スイカをひやしてみんなで食べると、夏のあつさも少しやわらぎます。

食べ物も、夏らしいさっぱりとしたものが多くなります。たとえば、スイカやひやしちゅうか、そうめんなどが夏のていばんです。ひやしちゅうかは、つめたいめんの上にやさいやハムをのせた料理で、しょくよくが落ちるあつい日にも食べやすいです。そうめんも、つめたい水でしめたほそいめんをつゆにつけて食べるので、あつい日にぴったりです。スイカやくだものもひやして食べると、とてもさわやかで、夏のあつさをかんじさせません。

また、夏にはひまわりやあさがおといった花がさき、青空といっしょに見るととてもきれいです。これらの花は夏のシンボルでもあり、明るく元気な印象をあたえます。ひまわりばたけに出かける人も多く、しぜんのうつくしいけしきを楽しみながら、夏をかんじることができます。

さらに、日本の夏にはかも多くなるため、かとりせんこうやむしよけスプレーを使ってたいさくをします。かとりせんこうは、ゆっくりとけむりを出してかをとおざけるもので、日本の夏のおいとも言われています。そして、あつさたいさくとしては、うちわやせんぷうき、ふうりんなどもよく使われます。ふうりんは風がふくときれいな音を出し、その音ですずしさをかんじることができる夏ならではのアイテムです。また、外出時にはむぎわらぼうしをかぶって日ざしをさけることもあります。

日本の夏はあついですが、海やプール、夏ならではの食べ物やアイテムを使ってくふうすることでかいてきにすごすことができます。あつさの中でも楽しみながらすごせる行事がたくさんあるのが、日本の夏のみりよくです。

あき 秋のふうけいとこうよう

あき 秋になると、にほん 日本のしぜんはいろ いろの色とりどりのうつくしいふうけいにつつまれます。
あき 山やまこうえんでは、もみじやいちようのはがあか 赤やきいろ 黄色にいろ 色づき、あざやかなこ
うようがひろがります。このきせつは、多くのおお 人が「もみじがり」をします。
「もみじがり」とは、もみじやいちようがうつくしくいろ 色づくばしょ 場所をおとずれ、
あき 秋のふうけいを楽しむことです。こうようの中でも、いちようのきいろ 黄色いはいが
ちめんにひろがるふうけいはとてもいんしょうてきで、にほん 日本のあき 秋をかんじます。

あき 秋にはほかに、さまざまなしよくぶつがみ 見られます。たとえば、コスモスの
はな 花はあき 秋にさき、やわらかいいろ 色あいがあき 秋のふうけいをはなやかにします。ひが
なも、あき 秋のおひがんにあわせてあか 赤いはな 花をさかせ、そのどくとくなくがたがあき 秋
のしずかなふんいきにぴったりです。おひがんとは、せんぞ 先祖をうやまうじきのこ
とです。また、あき 秋にきんもくせいもあき 秋にかおりをはなつはな 花で、あまいかおりがかせ
のってひろがり、あき 秋のおとずれをかんじさせます。

さらに、ススキのほがかせ 風にゆるるようすもあき 秋のふうぶつしです。ススキはうす
いぎんいろのほがとくちょうで、あき 秋のゆうぐれどき 時に見ると、そのけしきはとて
げんそうてきです。

あき 秋は、いねかりのきせつでもあります。いねかりは、こめ 米をしゅうかくするたいせつ
なぎょうじ 行事で、にほん 日本ではた 田んぼでこがねいろ 色にみのったいねをかりとります。いねか
りがおわた 田んぼのふうけいは、にほん 日本のあき 秋のいなからしいふうけいとして、
おお 多くの人にとってなじみぶかいものです。

このように、あき 秋にはこうようだけでなく、さまざまなしよくぶつやふうけいが
たの 楽しめます。いちようのはがみち 道や、ススキのほがかせ 風にゆるるようす、
きんもくせいのかおりなど、あき 秋はご 五かんだの 楽しむきせつです。もみじがりやた
んぼのふうけい、あき 秋のはなばな 花々を通じて、あき 秋のうつくしいしぜんをふかくかんじる
ことができます。にほん 日本のあき 秋は、いろ 色とかおりにつつまれたゆたかなきせつで、そ
のおお 多くの人のこころ 心をいやしてくれます。

あき 秋のしゅうかくさいとあきのみかく

あきは「しょくよくのあき」ともよばれ、にほんではしゅうかくのきせつにあわせてさまざまなおいしい食べ物（たのたの）が楽しめます。のうさくぶつ（たの）のみのりにかんしゃし、しゅうかくをいわう「しゅうかくさい」も各地（かくち）で行われ、あきのみかくを味わう（あじ）よいきかいとなっています。あきはいねかりのきせつでもあり、たの田んぼ（た）がこがねいろ（いろ）にそまり、にほんのあきらしいふうけい（たの）を楽しめます。

あきのみかくとして、さまざまな食べ物（たのたの）が楽しめるきせつでもあります。くりやさつまいも、かぼちゃ（あき）などが秋のだいひょうてきな食べ物（たのたの）です。くりはそのまま食べるほかに、くりごはん（た）やモンブラン（つか）といったスイーツにも使われます。さつまいもはやきいもにすると、あまくてほくほくとしたあじ（あじ）の味わい（たの）が楽しめます。かぼちゃはにものやスープ（ひろ）にすると、やさしいあまさが（ひろ）広がり、あきらしいしよくたく（あき）にぴったりです。

また、あきにはきのこ（あき）のこもしゅん（あき）をむかえます。しいたけ、しめじ、まいたけ（あき）などが秋のきのこ（あき）として人気（あき）があり、なべ料理（あき）やいためもの（あき）に使われます。きのこは（あき）かおり（あき）がゆたか（あき）で、あきらしいふかいあじ（あじ）の味わい（たの）を楽しむ（あき）ことができます。特に「まつたけ」（あき）はこうきゅうなきのこ（あき）として知られ、かおり（あき）が強く（あき）、あきらしいしよくたく（あき）にしかあじ（あき）わえないぜいたくな（あき）食材（あき）です。

さらに、あきには（あき）しんまい（あき）のこも楽しむ（あき）ことができます。しんまい（あき）は、しゅうかく（あき）したばかり（あき）のあたら（あき）しいおこめ（あき）で、つうじょう（あき）のおこめ（あき）よりもあまみ（あき）があり、かおり（あき）もゆたか（あき）です。しんまい（あき）で（あき）たいご（あき）はん（あき）は、ふっくら（あき）としていて、シンプル（あき）にしお（あき）をかける（あき）だけでも（あき）おいしく（あき）いただけます。

このように、あきは（あき）みのり（あき）の（あき）おほ（あき）い（あき）きせつ（あき）で、さまざまな（あき）しゅん（あき）の（あき）しよくざい（あき）で（あき）ます。しゅうかく（あき）さい（あき）を（あき）つう（あき）じて（あき）その（あき）めぐみ（あき）に（あき）かん（あき）しゃ（あき）し、あきのみかく（あき）を楽しむ（あき）ことは、にほん（あき）のあき（あき）なら（あき）では（あき）の（あき）ふう（あき）しゅう（あき）です。あきのみかく（あき）を（あき）あじ（あき）味わう（あき）ことで、しぜん（あき）の（あき）めぐみ（あき）を（あき）かん（あき）じ、あきらしいしよく（あき）の（あき）きせつ（あき）の（あき）うつり（あき）かわり（あき）を（あき）あじ（あき）楽しむ（あき）ことができます。にほん（あき）のあき（あき）は、（あき）しよく（あき）を（あき）つう（あき）じて（あき）ゆたか（あき）なき（あき）せつ（あき）の（あき）いろ（あき）どり（あき）を楽しむ（あき）ことができます。あきらしいしよく（あき）の（あき）きせつ（あき）です。

冬のふうけいとゆきの楽しみ

冬になると、日本の多くのちいきでゆきがふり、うつくしいゆきげしきが広がります。特に北の地方や山では、つもったゆきが町や山を真っ白におおい、しずかな冬のふうけいが楽しめます。ゆきの多いちいきでは、ゆきだるまを作ったり、ゆきがっせんをしたりするなど、ゆきあそびがにちじょうてきに行われます。ゆきがつもったまちなみやきぎのけしきは、まるで絵のようなうつくしさです。

また、日本の冬といえば「正月」もじゅうような行事です。正月は一年の始まりをいわうとくべつなじきで、日本の多くのかていでは、家族があつまり新年をむかえます。正月のふうしゅうには「ねんがじょう」を送るしゅうかんがあります。ねんがじょうは新年のあいさつをつたえるためのはがきで、家族や友人、仕事の人にかんしゃの気持ちや新年のねがいをこめて送ります。ねんがじょうには、えと（じゅうにしの動物）やえんぎのよいデザインが多く、年が明けた1月1日にとどくようにじゅんびします。

さらに、お正月には「かどまつ」や「しめかざり」といったとくべつなかざりを家の入口におきます。かどまつは、まつやたけで作られたかざりで、新しい年のかみさまをむかえるためのものとされています。しめかざりは、しんせいな場所として家をまもる意味がこめられ、げんかんなどにかざられます。これらのかざり物は、正月をむかえるためのじゅんびとして日本のでんとう文化にねづいています。

日本の正月では「はつもうで」という行事も行われます。はつもうでとは、新年にはじめて神社やお寺をおとずれ、けんこうやしあわせをいのるしゅうかんです。多くの人のがんたんから三が日にかけて神社やお寺に足を運び、新しい年のぶじをいのります。はつもうででは、おみくじをひいてうんせいをうらなったり、えまにねがい事を書いたりして、1年の始まりをいわい、気持ちを新たにします。

さらに、お正月には「たこあげ」や「はねつき」といったでんとうてきなあそびも楽しめます。たこあげは外で行うあそびで、特に子どもたちが元気にたこをあげてあそびます。はねつきは、はねのついたたまを木の板でうちあうあそびです。これらのあそびは、正月の家族のだんらんやでんとう文化を楽しむ時間として大切にされています。

このように、日本の冬はゆきげしきや正月の行事など、どくとくのふうぶつしでいっぱいです。ゆきにつつまれたうつくしいふうけいととも、家族や友人とすすあたたかなひとときは、日本の冬ならではののみりよくです。

さむい冬をあたたくすごす楽しみ方

日本の冬には、さむさをやわらげるためのさまざまな楽しみがあります。冬といえは「おんせん」が人気で、ひえた体をあたたくいおゆでいやすことで、心も体もリフレッシュできます。特にゆきがふるちいきでは、ゆきげしきをながめながら入る「ろてんぶろ」がみりよくです。冬のしぜんをかんじながら、おんせんですごす時間は、日本の冬ならではのぜいたくなひとときです。

冬には、かていにもあたたくいすごし方がたくさんあります。たとえば「こたつ」は、日本の冬のていばんです。こたつは、あたたくいふとんでおおわれたつくえの下にヒーターがついており、中に入るととてもあたたくくなります。こたつに入りながら「みかん」を食べるのも、冬らしいすごし方です。家族でこたつにあつまり、あたたくい飲み物を飲んだり、テレビを見たりしながらすごす時間は、ほっとする冬のふうけいです。

また、冬のしょくたくには「なべ料理」がよくとうじょうします。なべは、やさいや肉、魚などを一つのなべでこむ料理で、体のしんからあたたまることがができます。よせなべやしやぶしやぶ、すきやきなど、さまざまなしゅるいがあり、家族や友人となべをかこむことで、さむさもわすれて楽しいひとときをすごせます。

日本では、とうじという日もとくべつです。とうじは一年でもっとも夜が長い日で、この日に「ゆずゆ」に入るしゅうかがあります。ゆずゆとは、おふるにゆずをうかべて入ることで、かおりをしみながら体をあたためるでんとうてきな方法です。ゆずゆに入るとかぜをひきにくいとされ、けんこうをねがう気持ちがかめられています。

そして、年末年始には「おせち料理」や「ぞうに」を食べるのが日本のでんとうです。おせちは、新年をいろうためのとくべつな料理で、かずのこやくるまめ、エビなどえんぎのよい食材がならびます。また、ぞうにはお正月に食べるおもち入りのスープで、ちいきによって味や具材がことなりますが、家族でおぞうにをかこむのも冬の楽しみです。

このように、日本の冬にはおんせんやこたつ、なべ料理、ゆずゆ、ぞうになど、さむさをやわらげ、体をあたためるくふうがたくさんあります。さむいきせつだからこそ、家族や友人といっしょにあたたくい場所ですごす時間がとくべつにかんじられます。日本の冬には、あたたくさと楽しさがつまったみりよくがあふれています。

しきを通じた日本の生活

日本には春、夏、秋、冬の四つのきせつがあり、それぞれのきせつに行事やふうぶつしがあります。きせつのうつりかわりにあわせてくらしは、日本の文化の一つであり、しぜんとともに生きるしせいが大切にされています。しきを通して人々はきせつごとのうつくしいけしきや食べ物、行事を楽しみながら、日々の生活にきせつのいりどりをとり入れています。

春にはさくらがさき、お花見を楽しむふうしゅうがあります。さくらの下で家族や友人といっしょにすごし、春のおとずれをよるこびます。夏になると、夏まつりや花火大会が行われ、夜空にうち上がる花火が多くの人々をみりようします。秋にはこうようを楽しむ「もみじがり」に出かけ、うつくしい山を見ます。冬にはゆきげしきが広がり、正月をむかえるじゅんぴとしてかどまつやしめかざりをかざり、家族で新年をいわいます。

しきそれぞれに、きせつをしょうちょうする食べ物や行事があります。春のたけのこや菜の花、夏のスイカやかき氷、秋のくりやきのこ、冬のおせち料理やなべ料理など、きせつごとのしゅんのみかくを楽しむことで、きせつのへんかをかんじることができます。日本人はしぜんのめぐみを大切にし、そのじきならではの食べ物を味わうことで、きせつごとの生活をよりゆたかにしています。

しきのうつりかわりにあわせてくらすことは、しぜんのうつくしさをかんじるだけでなく、きせつのふしめごとに新しい気持ちで日々をむかえることにもつながります。日本の生活では、きせつごとの行事やふうけいを通して、しぜんや家族、友人とともにすごす時間がそんちょうされています。こうしたしきを大切にするしせいは、日本人にとってとくべつなものです。

このように、しきおりおりの行事やふうぶつしを通じて、日本ではきせつのうつりかわりが生活のいちぶとなり、日々のくらしにいりどりをあたえています。しきをかんじながらすごすことは、日本のでんとうてきな文化のいちぶであり、日本人がしぜんとちょうわして生きることを大切にしているあかしでもあります。しきのうつくしさと、そのきせつごとの楽しみを味わうことができるのが、日本の生活のみりよくです。

「日本のしき」はいかがでしたか。
コメントであなたのかんそうをみんなに教えてください。
それでは、またべつのどうがでお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

